

街の縁側

茨城大学都市システム工学科
建築都市デザイン研究室
四年 佐々木健志
指導教員 稲用隆一 講師



都市部にある希少な親水空間
しかし周辺建物はほとんど川に対して開かれていない
川辺に滞在空間を設計することで川に対する建築の開き方を提案する

1 背景

静岡県三島市を流れる源兵衛川は都市の中に在りながら、川の中を歩くことのできる希少な親水空間である。湧水の清流、飛び石、樹木の緑が自然と都市の重なりを生む。一方で、川との関係を計画的に取り込む建築・施設は少ない。夏季は賑わいが生まれるが、冷え込む季節には利用が減少し、川と街の距離が拡大する。加えて、川沿いの建築物は川に対しあまり開かれておらず、建築と川の連続性が弱い為、川辺に建築を介した滞在空間がほとんどない。

2 対象敷地

【三島源兵衛川について】

源兵衛川は全長 1.5kmの富士山の伏流水を水源の川である。かつては農業用水路として利用されていたが、高度経済成長期には工場排水によりドブ川となった。しかし市民活動によって再生し、飛び石や遊歩道が整備されたことで、再び市民に身近な川へと生まれ変わり、8つのゾーンに分けられた。

【敷地選定】

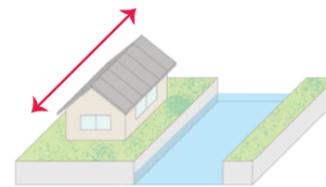
本計画では、8つに分けられたゾーンの中でも特に人と川との関係を意識してテーマ付けられた、敷地の条件が異なる川沿いの三か所を対称敷地とする。異なるテーマ、異なる敷地条件に対し操作を加えることで、川に対する様々なかかわり方とその共通性を示す。

3 コンセプト

本提案では、源兵衛川の川辺に複数の建築を介在させることで、地域コミュニティを活性化し、川と建築の関係性を再構築し川辺に縁側のように人が集まる空間を創出する。ゾーンごとに建築を介在させることで、地域の営みに新たな要素を加え、各エリアごとに川との関係を踏まえ、川沿いに滞在空間を増やすことを目指す。川とまちと人との新たな関係性を生み、これから先の源兵衛川沿いの建築における川への開き方提案する。

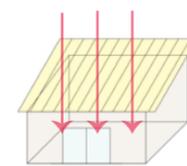
4 川に対する開き方

【建物の軸】



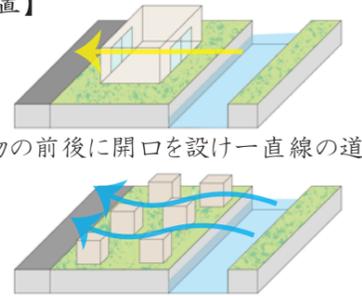
建物の軸を川に対して平行にする

【屋根】



光を透過する膜屋根

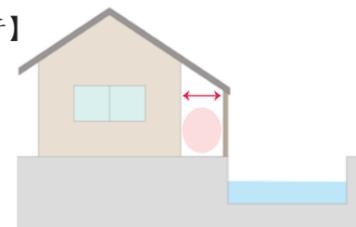
【開口と配置】



建物の前後に開口を設け一直線の道を作る

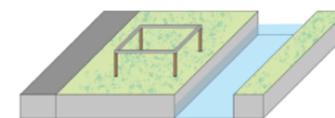
分棟にし配置をずらすことで視線や風の抜けを作る

【軒】

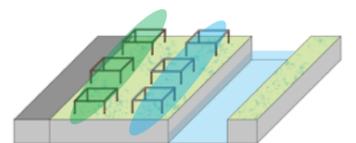


軸を平行にしたことで軒を延長し、その下に川と建物との中間領域となる滞在空間が生まれる

【構造と配置】



柱を木、梁を鉄骨にする
ことで大空間を作る



道側を木構造のみとすることで
連続性を作る

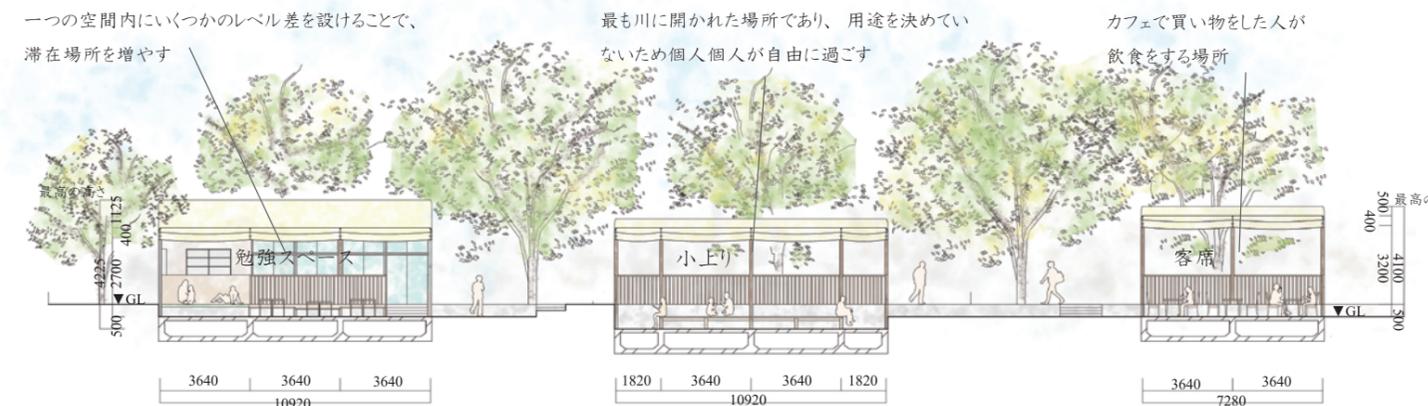
5 敷地条件 1 ~空地~

【親水エリア】

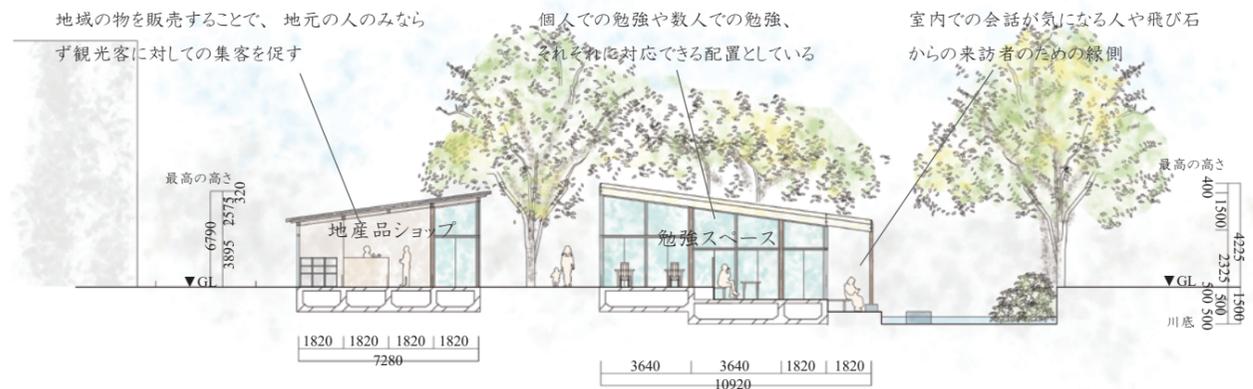
源兵衛川を象徴するエリアであり、飛び石のスタート地点でもある。下流側にはベンチが設けられ、人々が腰掛けて川を眺めることができる。周囲には樹々が生い茂り、他の場所よりも一層自然を感じられる空間となっている。

【設計趣旨】

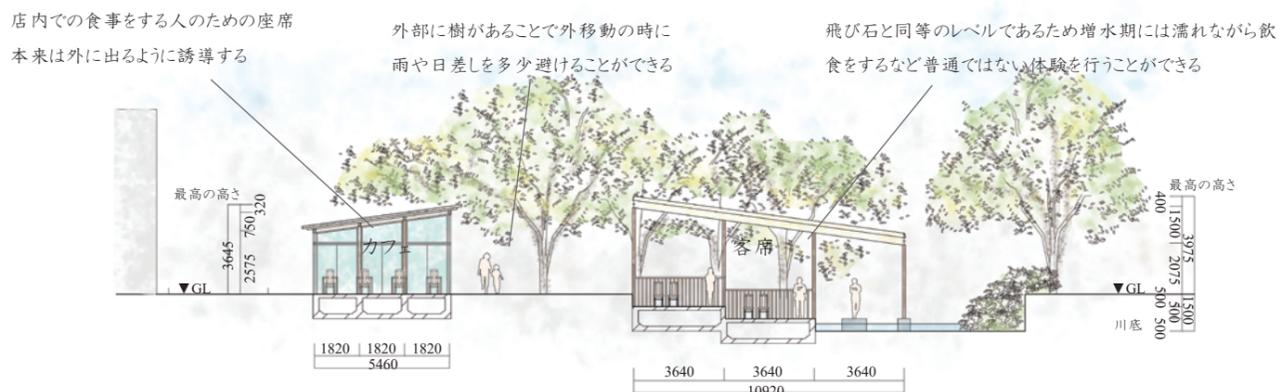
飛び石のスタート地点に川へ大きく開かれた公共空間を設けることで、人々が自然に川へと誘われ、川との関わりが広がっていく。この空間は、ただ川を眺めるだけでなく、水音や風、木漏れ日を感じながら滞在できる場所となる。夏の暑い日だけではなく、春や秋には散歩や語らいの場として、冬には澄んだ空気の中で静かに川を眺める場所として、年間を通して多様な過ごし方を促す。



A-A' 断面図 S=1/300



B-B' 断面図 S=1/300



C-C' 断面図 S=1/300



6 敷地条件2～川の中～

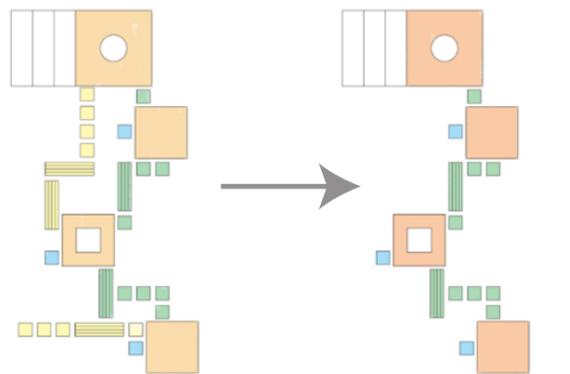
【歴史エリア】

宿場町としての歴史がある三島市の歴史を知るエリアであるとともに、三島市の文化と源兵衛川交わる場所とされている。近隣には時の鐘をはじめ三石神社やうなぎの名店など古からの歴史を感じさせる文化的な見どころがいくつか見られる。その一方で、川に対して開かれた場所である、時の鐘の塔は老朽化により立ち寄ることさえできなくなってしまった。

【設計趣旨】

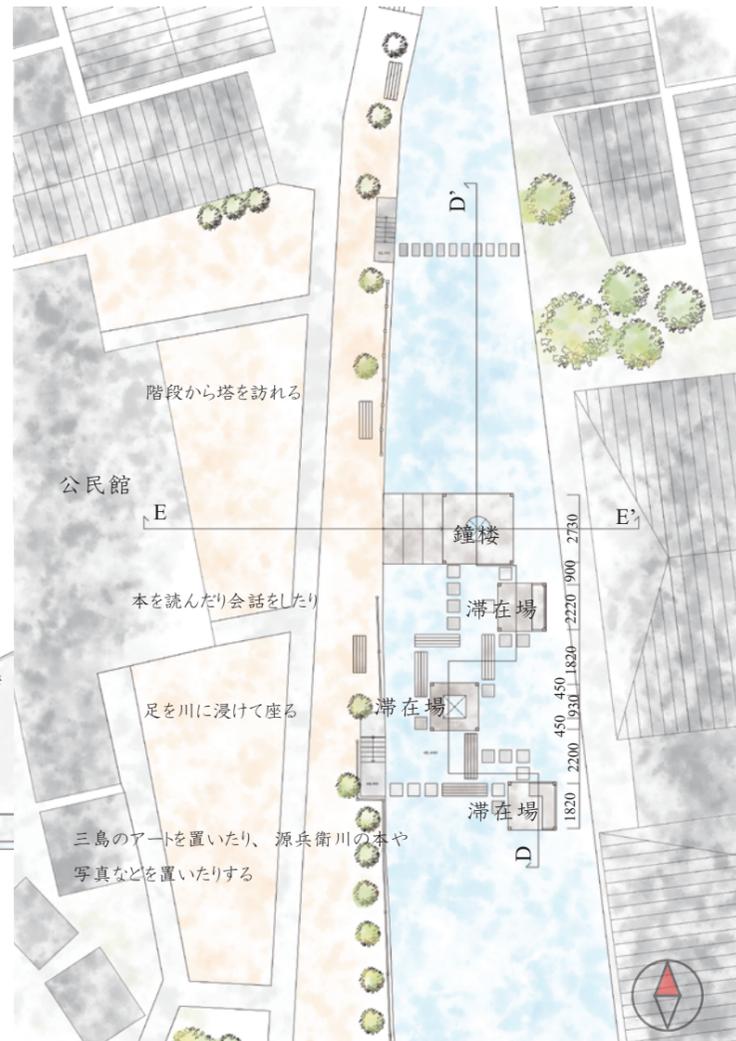
かつて街に時刻を知らせていた時の鐘を再設計し、塔を建て替えるとともに、川の中に滞在空間を設計することで、鐘という古からの遺産を強調するエリアに変えていく。その他いくつか小さな滞在空間を設計し、それに付随して箱を設けることで滞在しつつ三島市について知るきっかけになるような場所にする。

【水量による移動経路】



通常的配置

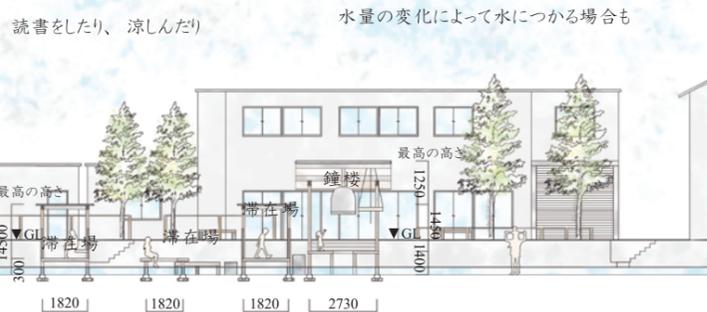
水量が多いときの動線



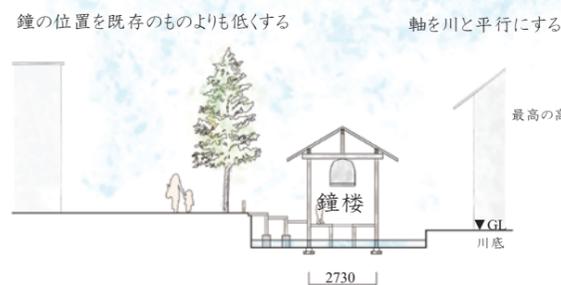
配置図兼平面図 S=1/300



既存立面図 S=1/300



D-D' 断面図 S=1/300



E-E' 断面図 S=1/300



既存東側立面図 S=1/300



東側立面図 S=1/300

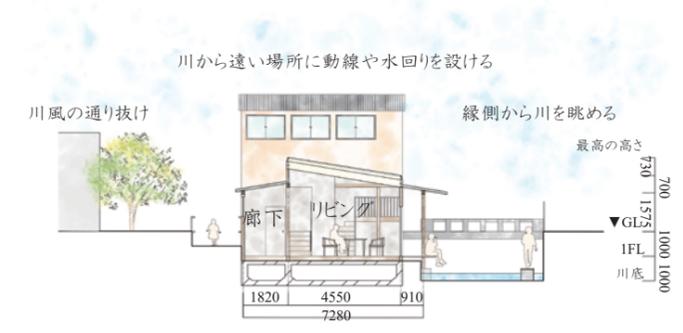


F-F' 断面図 S=1/300



配置図兼一階平面図 S=1/300

二階平面図 S=1/300



G-G' 断面図 S=1/300

7 敷地条件3～空き家～

【橋エリア】

橋によって人が川が会うエリアとされている。実際他の場所に比べて橋が多く、屈まないと通れないような場所がいくつかある。そんな中で、橋をくぐってすぐの場所に一軒の空き家がある。他の場所では見られないような立地に建っており、川と人の出会いに適した場所であった。

【設計趣旨】

橋をくぐってすぐの場所にある空き家を改修することで地域拠点となる場を設計する。他の二つのエリアと比べると下流側にあり、川と人、人と人のつながりが薄い。しかし近隣には学校や病院などがあり人々が交差する。川と人、人と人の関係をより密接にするために川に対して開いた設計をすることで、川辺での拠点作りの提案をする。



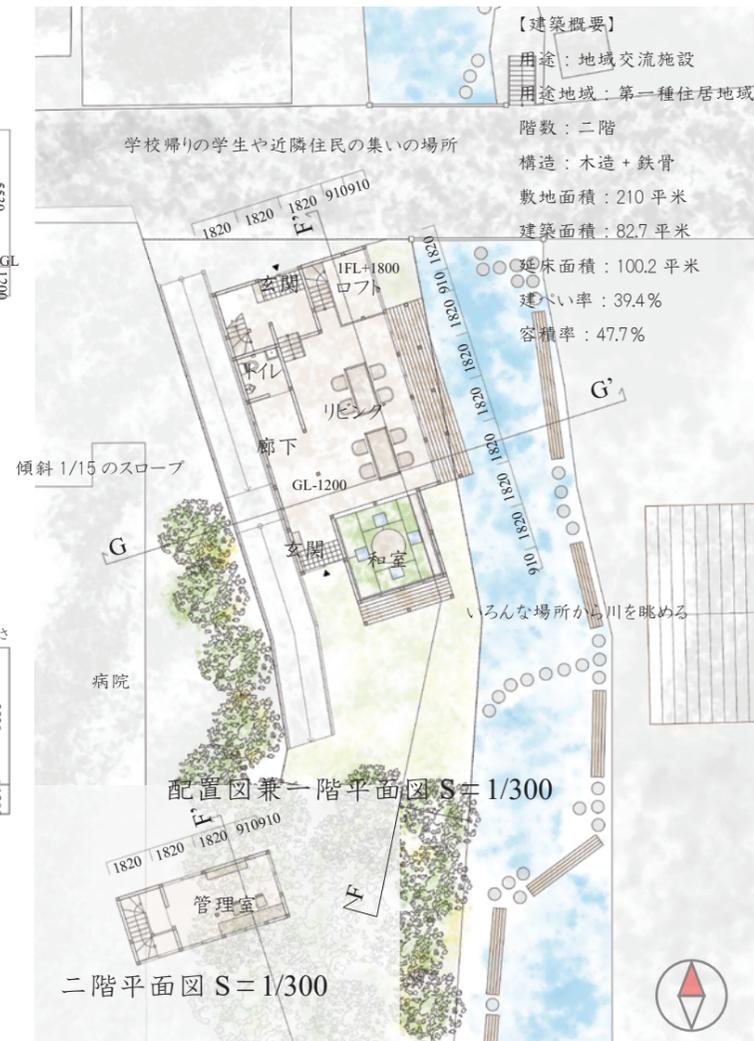
既存東側立面図 S=1/300



東側立面図 S=1/300

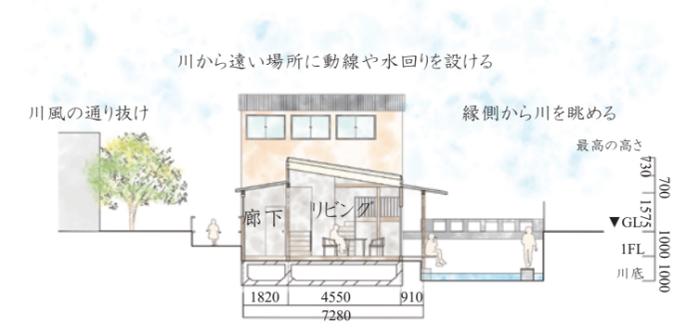


F-F' 断面図 S=1/300



配置図兼一階平面図 S=1/300

二階平面図 S=1/300



G-G' 断面図 S=1/300